

豊かな自然
こころあたたかな人々
共に生きるまち



北海道豊頃町

www.toyokoro.jp



町名・町章の由来

アイヌ語の「トエコロ」が語源で、その意味は「大きなフキが生えていたところ」といわれています。町章は、中心からト・ヨ・コ・ロを抽象化し、平和・親和・協力・団結を示し、変形三重円は波紋を表現し、町の限りない躍進を表しています。

豊頃町 DATA

豊頃町民憲章

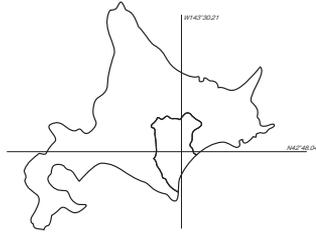
わたくしたちは、^{ふるさと}故郷の母なる^{たいが}大河十勝川の流れるところ——
その^{おおうなばら}大海原をのぞむ、十勝発祥の地に働くよろこびに生きる、豊頃の町民です。
わたくしたちは、先人のたくましい開拓精神と、報徳のおしえをうけつぐことを
ほこりとし、この町民憲章を定めます。

いまを充実させ、未来を発展させるために。

- 健康で、明るい町をつくりましょう。
- 自然を愛し、生産を高め、豊かな町をつくりましょう。
- きまりを守り、安全で住みよい町をつくりましょう。
- お互いの立場を理解し、助け合って、しあわせな町をつくりましょう。
- 文化を高め、未来に夢をもつ町をつくりましょう。

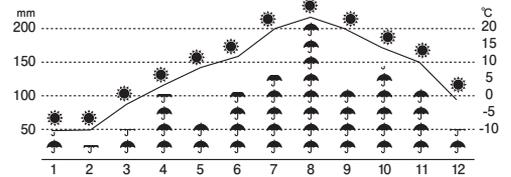
位置・地勢

東経143度30分・北緯42度48分、十勝の東南端に位置し、同緯度にはボストン、シカゴ、ローマなどの都市があります。町の東部を流れる十勝川の河岸段丘と、西部地域の標高約330mを最高とする低丘陵地で形成されており、十勝川とその支流沿いに肥沃な耕地が広がり、丘陵部は豊かな森林地帯となっています。



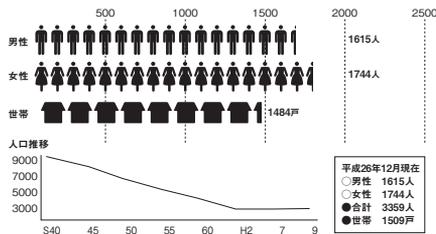
気候

内陸部は大陸性の気候を示し、夏は比較的高温、冬は低温・乾燥の日が続きます。平均気温は夏は約20℃、冬はマイナス10℃前後。雨量は少なく、秋から春にかけて晴天日が非常に多いドライ・ゾーンとなります。南部は太平洋の影響で、夏に海霧の発生があります。



人口・世帯

平成26年12月末現在の人口は3,359人(男1,615人、女1,744人)で、世帯数は1,509戸となっています。昭和30年代には1万人を上回る人口を数えましたが、40年代にはいって過疎化が進み急速に減少しました。50年代後半からは5,000人台となり、現在も減少傾向にあります。



姉妹都市

●相馬市(福島県)



●滑川市(富山県)



相馬市、滑川市は、豊頃開拓の祖二宮尊親と、富山県から多くの移住者があったことから、2都市と姉妹締結をしています。報徳精神や深い関わりを大切にしながら、産業や文化交流、児童親善使節団をとおして、まちづくりや福祉の向上をともに目指しています。

●サマーランド(カナダ国)

サマーランドとの交流は池田町の姉妹都市ペンティクトンの紹介で始まったもので、平成6年の中高生の派遣(ホームステイ)からスタートしました。



面積

豊頃町の直線延長は東西が約34km、南北が約35kmで、その面積は536.52km²となっています。この広さは十勝支庁全体(10,831.23km²)のおよそ20分の1にあたり、管内19市町村のうち9番目の広さとなっています。森林面積が61%を占め、農業用地は約20%となっています。



表紙写真／浦島 久



CONTENTS 目次

- 04 豊頃町の風景
- 08 豊頃町の歴史 -町制施行50年-
- 10 **二宮尊親の足跡を辿り、報徳を考える**
- 18 **豊頃町 今を暮らす人々**
* 廣瀬義一さん、郁代さん
* 菖蒲淳子さん
* 澁佐綾子さん
- 24 皆さんに聞きました! 豊頃町のココが好き
- 27 **豊頃町を支える4つの産業**
* 農業 宝田哲也さん
* 漁業 竹田真久さん
* 林業 坂口充宏さん
* 商業 豊榮良幸さん
- 35 **豊頃町の笑顔が集まる場所**
* える夢館
* 生涯教室&豊寿大学
* こどもプラザとよころ
* 豊頃町社会福祉協議会
* 喫茶ふわり
* とよころ物産直売所
* 長節湖キャンプ場管理施設いんかるし〜長節 ほか
- 45 豊頃町「移住体験」のすすめ。
- 46 豊頃町をもっと楽しめる
素敵な廃校舎「とかるね」ってどんなところ?
- 48 天然記念物の野鳥5種が集う
豊かな恵み育む豊頃町で…。
- 52 豊頃町ドライブマップ
- 54 とよころ町イベント PICK UP
- Column**
- 17 エレゾ社
26 アイシン精機
34 エコERC



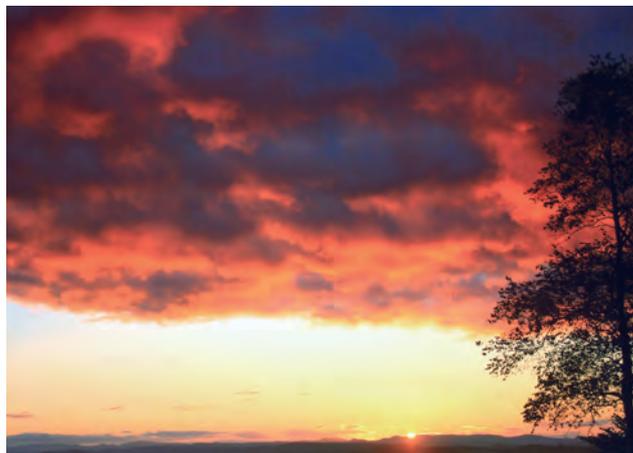
「はるにれに虹橋」 高木 皓

| 豊 | 頃 | 町 | の | 風 | 景 |

町内在住の写真愛好家による

何気ない日常の中にある、一瞬
ふるさとに、無限の愛を込めて

「重い空」
檜木敬子



「夜明け」
檜木 勝



「二宮まつり」 福井美枝子



「大津浜」 福井一浩

この地に根ざし、生きる人々
その息遣いが、写真を通して伝わってくる



「茂岩公園の春」 土井健二



「雪のふる夜」 平野武美



「全道サイクリング十勝大会inとよころ」 紺野 裕



豊頃町の歴史 — 町制施行50年 —



写真上／豊頃町誕生を報じる当時の広報より写真抜粋。
写真中／町制施行記念パレードの様子。
写真下／町制施行当時の茂岩市街。

豊頃町大津。十勝の開拓の歴史は、この地から始まりました。江戸時代末期に始まった開拓。文久3年(1863年)に青森から大津へとやって来た堺千代吉が、和人として大津に定住した初めての人物とされています。

明治13年、十勝外四郡(中川郡、河東郡、河西郡、上川郡の四郡)戸長役場(現在の町役場の前身)が設置され、大津はますます十勝の中心として発展を遂げていきました。理想の地を求めて十勝にやって来た二宮尊親一行がウシシユベツ原野を発見したのが明治29年。翌年には二宮農場として開墾し、現在の豊頃町の礎を築きました。開拓は厳しい自然との戦いの連続でしたが、人々は幾度も訪

れた冷水害、地震などの災害を乗り越え、まちは発展を続けました。

昭和30年4月、大津村の特殊な地理的要因などから、全国的にも珍しい三分割により村の中心部を豊頃村に編入し、昭和39年には戸数1904戸、人口1万80人を数えるまでになり、街並みも整っていきました。

そして昭和40年(1965年)1月1日、町制が施行。ここから、大津村、豊頃村の歴史と伝統を引き継いだ、「豊頃町」の50年の歴史が始まります。昭和42年には豊頃町民憲章を制定。そこには、「…先人のたくましい開拓精神と、報徳のおしえをうけつぐことをほこりとし…」と、謳われており、今もなお、町民のあるべ

き姿が示されています。昭和54年には現在の役場庁舎が完成。同年には長年の要望であった大津漁港も開港し、安心して漁を営む基盤が整備され、サケ漁を中心に、大津の漁業はますます発展していくこととなりました。4年後、8年の歳月をかけて豊頃大橋が完成しています。

平成27年1月1日をもって町制施行50周年を迎えた豊頃町。近年では農業の生産額が100億円を突破し過去最高を記録。漁業では、設立65周年を迎えた大津漁協の記念碑除幕式が行われるなど、更なる躍進を誓いました。先人のたくましい開拓の精神と「報徳のおしえ」を胸に、次の半世紀に向けて豊頃町は歩み続けていきます。



昭和37年(1962年)8月2日～4日。台風9号による大豪雨で氾濫した十勝川と茂岩橋。
 「十勝川—写真で綴る変遷—」(北海道開発局帯広開発建設部)

豊頃町の歴史は、水害との戦いでもありました。



開拓の歴史、水害との戦いの歴史にまつわる石碑が、現在も町内に残されています。この地にやって来た先人たちの胸に秘められた思いは、どのようなものだったのでしょうか。





二宮尊親の足跡を辿り、 報徳を考える

今から約120年前に十勝を大きく変容させる出来事が起こった。その契機となったのが、1897年に公布された「北海道国有未開地処分法（大土地所有制を可能にした法）」である。この法により十勝地方に大農場が続々誕生し、多くの大農場主は不在地主として小作制（土地の貸借に伴う権利関係、特に高額の小作料が問題となる）を行い、多くの移住者は北海道で土地を持つ夢を抱きやうて来たが大農場から自立することは難しく、小作農としての生活を余儀なくされた。同年に二宮尊親は相馬地方から入植者を引き連れ、豊頃町二宮地区の開拓に乗り出し、困難な開拓と闘いながら、村づくりと農民の独立を見事に成功させた。

この成功は、大農場では極めて稀まれなことであり、尊親の指導が高く評価される所以ゆえんであり、その背景には「報徳」の精神があった。この報徳とは何か、尊親の足跡を辿りながら考えてみたいと思う。

文／豊頃町郷土資料調査研究員 佐藤信勝



佐藤 信勝さん

1944年生まれ。二宮尊親、報徳のおしえ、大津の歴史について調査、研究を重ねてきた。豊頃町郷土資料科調査研究員。



写真右／報徳の考え方が108字にまとめられた、尊親書の報徳訓。二宮構造改善センターに所蔵されています。
写真左／同じく、二宮構造改善センター敷地内にある牛首別報徳会の記念碑。



豊頃町の誇る歴史とは

豊頃町には誰にも誇ることでできる歴史が多数ありますが、ここでは報徳について紹介させていただきます。豊頃町の町民憲章に「：わたくしたちは、先人のたくましい開拓精神と報徳のおしえをうけつぐことをほこりとし：」と謳われていますが、これは単に豊頃町だけの範囲に留まることなく、全国の報徳運動の中で考える必要があります。豊頃町の役場前に「二宮尊徳の像」がありますが、知っていますか。これは青銅（ブロンズ）で制作されていますが、全国で同じものが三体（相馬市、真岡市、豊頃町）あります。両市とも尊徳にゆかりのある地です。この像は報徳運動の著名な活動家である田嶋亨氏によって、豊頃町に寄贈されたものですが、その理由は「豊頃は報徳のおしえ」にふさわしい町であるからとのことでした。このように豊頃は全国を代表する「報徳の町」なのです。

二宮尊親とは

アメリカの東インド艦隊司令官ペリールが黒船を率いて日本へやってきた頃、尊親は安政2年（1855年）、日光市今市にて父尊行、母鉸の長男として誕生、幼少期を過ごしました。尊親、正式には「たかちか」と読みます。尊親の祖父は二宮尊徳です。戊辰戦争の時、父の尊行は

相馬藩から招かれ、二宮家は日光市今市から相馬へ転住しました。明治10年（1877年）興復社を結成し副社長に、

明治23年には社長に就任。明治29年7月に相馬の農民を救済するため新天地を求めて北海道に渡り、ウシシユベツ原野の一画（豊頃町二宮）を入植地と定めます。尊親は現地で10年間指導し、成功を確信して相馬へ戻り、相馬では祖父尊徳の残した膨大な資料の整理などを行いました。



ものごとを実現するため、この四綱領を日常生活の指針としました。

大正11年（1922年）体調を崩し東京にて静養中に死去（68歳）。

報徳とは

報徳とは何か、チョットわかりにくいところがありますが、ここでは「二宮尊徳が考え、教えたことを実践する」と考えます。尊徳は何を教えようとしたの

「至誠」

まっすぐで思いやりのある心をもつて生活すること

「勤労」

働くことは生活の基本であり、社会に役立つ成果を生み出すこと

「分度」

経済的には、収入の枠内で一定の余剰を残し、生活すること

「推譲」

働いて得た余分は、貯え、社会のために各人は分に応じて拠出すること



二宮神社から眺める、二宮地区。尊親が探していた、理想の地です。

か。この頃の北関東は天災が続き、農村が破壊され、そこに住んでいる農民の生活は苦しく、精神的にも荒廃している姿が見られました。そこで尊徳は、農民が抱えていた多額の借金をなくすために無利息でお金を貸し、その返済方法を指導したり、一生懸命働いた農民を表彰したりして励まし、農民にやる気を高めさせ、苦しい環境を変えるための自助努力(勤労・儉約)を教えました。また、人は自然や人との関わり合いのなかで生きていきますので、それらに対し感謝の気持ちを持つて返すことも。これが報徳です。これを実現するため、日常生活の指針として四綱領があります。

興復社とは

尊親を語る時、興復社という言葉がよく出てきますが、この興復社とは何を指すのか考えてみたいと思います。江戸時代の終わり頃、相馬藩は天災などで財政の悪化に見舞われ、苦しんでいました。その建て直しを行ったのが二宮尊徳です。これを相馬仕法と呼んでいます。この仕法により再建は成功しましたが、明治4年に廃藩置県がなされ、仕法は中止となりました。そこで二宮尊徳の高弟であった富田高慶や二宮尊親などが、明治10年に「興復とは衰を挙げ廃れを興し、危うき安きに復す」という尊徳の教えを継続するために結成したのが興復社です。そ



明治末期に撮影された、尊親一家と興復社社員。前列左から3番目の、杖を持った人物が尊親。

の後、国内では新しい社会の経済的な変化に対応できない農民は生活が苦しくなってきました。興復社は相馬地方のこれらの農民を救済するため新天地を求め、「北海道探見」に乗り出します。明治29年7月29日豊頃町二宮の地に辿り着き、ここは新しい村づくりに適した理想の地であると入植先に決め、相馬より豊頃への入植が開始。現在の二宮地区の繁栄へとつながっています。

「村名御許可願」から見える 尊親の考えと願いとは

「興復社 官庁願届綴」(相馬市所蔵)の中に「村名御許可願」がありますが、この文書は当時の事情を知ることができる



豊頃町二宮報徳館には、興復社ゆかりの道具などが多数保管されています。

1. 農地開拓に実際に使用された計測器。作業はほとんど手作業で進められました。
2. 尊親が着用したとされる、冬用のコート。
3. 同じく尊親が使用した下駄。この下駄をはいて、尊親は何度も二宮の地を歩いたのでしょうか。
4. 書類作成などに実際に使用された木版。染み込んだインクの跡が歴史を感じさせます。



写真右/二宮構造改善センターには、尊親まつわる貴重な資料が収められています。
 写真中/センターの敷地内には、尊親のお墓があります。
 写真左/センターの敷地内にあるハルニレの大木。尊親たちの歩みを、静かに見守ってきました。



上記の目的で事業に臨み、その切なる思いを込め、新しくできる村には、二宮の姓を取り「二宮村」との命名を望み許可を求めましたが、その答えは、残念ながら「北海道庁に村名許可願を差出したが、その後何等の通知もなく、自然に消滅し

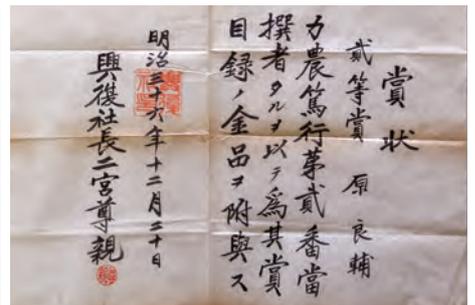
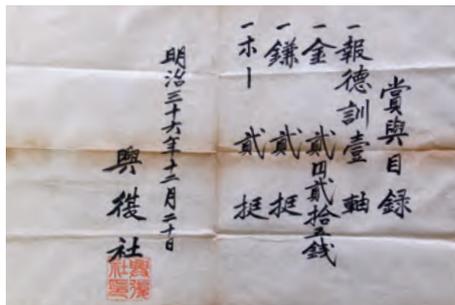
大農場では極めて稀なことと高く評価されています。

興復社の村づくりと農場経営についての考えを、尊親は「興復社のウシシユベツ原野の入植は、小作養法とは違い、自治独立を目的にした村落を構成する」と述べています。移住者の中で大農場の小作人として働く人も大勢いましたが、その実態はどうであったのか、尊親は「大農場とは、農場主の所有(高額の小作料)を造るのが目的であり、多くは小作制で、小作人へ幾分の土地貸与はあるが全部の贈与は殆どまれ」と語っています。小作人が土地を取得し独立して農民になることは難しかったのです。また農場主は不在地主として多くは東京に滞在していましたが、尊親は自ら入植地に入って先頭に立ち、入植した農民への村づくりと農民の独立に取り組み、成功させたのです。

貴重な資料です。この資料は明治30年3月24日、ウシシユベツ原野 興復社出張所から北海道庁へ郵送されたものです。二宮地区への第一期入植は明治30年4月8日ですが、資料の日付により、移住者の入植前に現地で事務所を設けて入念に準備していたことがわかります。



写真上／ウシシュベツ農場員名札。皆の手本になるように、下段には表彰者（力農篤行者）の名札が掲げられています。
写真右下・左下／尊親が力農篤行者に贈った表彰状と、褒美の目録。表彰された人物の子孫にあたる人が、大切に保管していました。



た」と朱書きで記されていました。

尊親の取り組み

芋コジとは

興復社の特徴ある取り組みに例会があり、芋コジとも呼ばれています。祖父尊徳も行っていました。この会議では毎月20日（尊徳の命日）に午後より仕事を休んで集まり、話し合いや研究を行いました。なぜ、このような会議を行ったのか。尊親は困難な開墾に立ち向かい、逃げたくなる移住者に、闘う力を維持、高めさせるために講話を行いました。これを心田こゝろはら開発ともいいます。また年に一度、厳しい状況の中で働く人を大切にし「力農篤行者」として表彰しました。尊親は「力農篤行者とは平素の心掛け善く且つ農業に丹誠なる者をいう」と述べています。この表彰は選挙による投票で当選者3名（後に5名を決め、当選者には一票につき金25銭が褒美として与えられました。この例会への出欠席がわかるように「興復社農場の名簿板」が置かれ、名札と皆の手本になるように下段には表彰者（力農篤行者）の名を掲げました。

以上のように農民のため、人のために尽くしてきた尊親の足跡を辿りながら報徳との関係を見てきましたが、報徳と尊親を考える一助となれば幸いです。



毎年秋に報徳二宮神社で行われる、二宮獅子舞神楽。町の指定文化財にもなっています。12名で構成される保存会は、5代目にあたります。「二宮は、何かやるときは結束が固い地区ですね」と、代表の青田さんが話してくれました。



報徳の心は、現代から未来へと受け継がれていきます。



豊頃小学校で行われた、報徳のおしえを盛り込んだ公開授業の様子。元気いっぱいの子どもたち。至誠、勤労、分度、推譲の四綱領をテーマにした、かるたづくりを行いました。

豊頃町の歩み 一略年表一

文久3年	堺千代吉、大津に初めて定住する。	58年	福島県相馬市と姉妹都市締結。
明治8年	漁場開設(十勝組合の設立)、 大津駅通所、郵便取扱所できる。	59年	豊頃大橋完成。
13年	十勝外4郡戸長役場、大津に開設。	59年	富山県滑川市と姉妹都市締結。
14年	大津簡易小学校開設。	第1回とよころサーモンマラソン大会。	
	藤井富兵衛、旅来に入植。	第1回まちづくり住民大会。	
17年	大津に幌泉警察署大津分署、電信分局できる。	60年	豊頃町連合婦人会創立30周年。
25年	富山県人20名、下牛首別に入植。	第1回とよころ夏まつり。	
26年	茂岩駅通所開設。	名誉町民に神田貞雄氏。	
30年	二宮尊親一行、二宮農場開く(福島県人)。	61年	第1回とよころカップ十勝綱引選手権大会。
32年	中川郡豊頃村、安骨村戸長役場開設。	森林学習公園「久保の森」オープン。	
	茂岩郵便局開局。	育素多排水機場着工式挙行。	
33年	茂岩簡易教育所できる。	62年	清掃センター完成。
36年	十勝水産組合できる。	63年	新豊頃町総合開発計画スタート。
37年	釧路～豊頃間鉄道開通。	「ジャパンFRP開発」企業進出。	
39年	二級町村制施行され、豊頃村と改称。	平成元年	アイシン精機テストコースの進出協定締結。
大正6年	十勝川に発動機船運行。	2年	町立豊頃医院新築完成。
10年	大津漁業組合発足。	開基110年記念式典挙行。	
昭和7年	十勝川治水工事着手。	3年	茂岩商店街活性化・マイロード事業開始。
8年	豊頃村産業組合発足。	下水道事業開始。	
12年	豊頃村、大津村に商業組合設立。	4年	桜づつみ整備事業開始。
15年	豊頃橋架橋に伴い、渡船廃止。	21世紀町づくりサミット開催。	
17年	豊頃村、大津村に森林組合設立。	十勝河口橋完成。	
22年	公選による村長選挙執行(四月)。	5年	町有バス運行開始。商工会館新築完成。
23年	豊頃村、大津村に農業協同組合発足。	6年	デイサービスセンター完成。
24年	大津村開基70年記念式典挙行。	7年	防災行政無線整備。
	豊頃村開拓農業協同組合発足。	8年	保健センター完成。
	大津村漁業協同組合発足。	カナダ・サマーランドとの姉妹都市締結。	
25年	豊頃村開基50周年記念式典挙行。	茂岩下水浄化センター完成。	
27年	十勝沖地震発生。豊頃町教育委員会発足。	9年	第一回「海と大地の祭典」とよころ産業まつり開催。
30年	町村合併により大津村中部地区を編入。	10年	第3次豊頃町総合開発計画スタート。
35年	チリ沖地震津波で大津に被害。	11年	大津地域コミュニティセンター完成。
	豊頃商工会設立。	12年	開町120年記念事業実施。
36年	茂岩橋竣工。	13年	生涯学習施設「える夢館」完成。
	農業構造改善事業実践町村に指定。	14年	二宮小学校開校100年、茂岩小学校に統合。
38年	長節原生花園、道天然記念物に指定。	15年	十勝川水防公開演習開催。
40年	町制施行。	十勝沖地震発生(震度6弱)。	
	開基八十五周年記念式典挙行。	16年	十勝環境複合事務組合に加入。
42年	町民憲章制定。	17年	町立歯科診療所新築完成。
	十勝川両岸暫定築堤完成。	ごみ有料化始まる。	
44年	大津港第4種漁港に昇格。	18年	町地域包括支援センター開設。
	東十勝3町し尿処理場完成。	19年	茂岩小学校と豊頃小学校が統合。
	農村電話自動化される。	茂岩保育所が旧茂岩小学校に移転。	
	社会福祉センター完成。	20年	(株)エコERC BDF工場竣工。
45年	豊頃町過疎指定町村に、旧大津村地区を山村指定。	町有料バス無料化。	
46年	豊頃町史できる。	高齢者世帯に福祉タクシー券交付事業を開始。	
	東十勝消防事務組合発足。	茂岩・豊頃・礼文内の3保育所が統合。	
47年	名誉町民に堺哲也氏。	十勝中央・池田町・豊頃町森林組合が合併し、十勝	
49年	第1回家畜まつりと秋あじ祭り開催。	広域森林組合が誕生。	
50年	大津郵便局開局百年祝う。	21年	大津・豊頃消防団が合併し、豊頃消防団が発足。
51年	新茂岩橋(豊頃大橋)建設工事始まる。	JA豊頃町小麦乾燥施設が竣工。	
52年	農村総合整備モデル事業指定。	22年	第4次豊頃町まちづくり総合計画スタート。
53年	農村地域工業導入地区に指定。	23年	友遊館完成。
	豊頃開拓協解散し、農業協同組合に合併する。	豊頃町情報通信基盤施設(光ケーブル)運用開始。	
	名誉町民に菅原春見氏。	24年	農ある暮らし移住体験用住宅完成。
	豊頃町総合開発計画スタート。	物産直売所完成。	
54年	豊頃町開基百年記念式典挙行。	25年	町民プール完成。
	役場庁舎新築完成。	26年	ユーラス豊頃ソーラーパーク完成。
	大津漁港一部使用開始。	大津漁港65周年記念式典。	
	字名地番改正事業(~57年終了)。	福祉センター改築完成。	
56年	総合体育館完成。	27年	豊頃町制施行50周年。

エレゾ社の シャルキュトリ

※シャルキュトリとは、食肉加工品の総称です。



揺るぎない信念のもとに創られる 「食の哲学」。

2004年、帯広市に設立されたエレゾ社。2009年に、大津に食肉総合ラボラトリーを建設しました。生産・狩猟・解体や、加工、調理に至るまで、細かに分類された部門それぞれが、考え抜かれた哲学によって、会員レストランや一般消費者に対してさまざまな食の提案をしています。身体が健康になること、心が豊かになること、関わった人々の笑顔が増えることこそが、思う正しさに繋がると信じて、真っ直ぐに、正直に「食」に向き合う企業です。

かつてヨーロッパで目にした土地に根づく食文化の美しさに、十勝のこの場所でこそできることは何だろうか試行錯誤。そうして辿り着いた思想は、エレゾ社の活動の全範囲に染み渡っています。「食」を真剣に考えることは、そのまま「生命」を考えることに繋がっているのでしょう。その信念を知ればこそ、とよころ物産直売所でも購入することができるソーセージやハムなどの加工品の味が特別なもの感じられます。一度食べればきっと魅了されるはずです。

エレゾ社

豊頃町大津125
TEL&FAX.015-575-2211
※とよころ物産直売所でも購入できます。

豊頃町 今を暮らす人々

廣瀬 義一さん、郁代さん

丘の上に吹く、風の心地よさを感じて

「四季を感じながら暮らすことは、都会暮らしにはない心の充足感を与えてくれます」。そう言いつて穏やかに微笑む、廣瀬義

一さん、郁代さん夫妻。義一さんは横浜、郁代さんは東京生まれ。長く都会で暮らしていたという2人が豊頃町へとやって来るきっかけは、海外での田舎暮らしを体験したことにあつたと言います。

義一さんは米国系自動車部品メーカーに勤め、1990年から1993年までイギリスに駐在し、技術者どうしの架け橋役を担っていました。そのときの暮らしが忘れられず、定年まで8年を残して仕事をリタイアすると、その数カ月後には田舎への移住を決意したのだそうです。

「長野にでも移住しようか、と考えていた時期もあつたんです。でも、土地のしがらみがない北海道、さらに雪の少ない十勝地方はすぐに候補にありましたね。知り合いの人との縁もあつて、豊頃に来ることになつて。自分がやりたいことをやろうと思つたら、自然と環境が整い始めるんですよ」。イギリスの長閑な田園風景を彷彿とさせる豊頃町を気に入り移住。企画課の皆さんが丘の上にポツンと佇んでいた廃屋を探し当ててくれたのだそうです。30年以上もの間、誰も住む人のなかつたその建物が義一さんの心に留まり、900坪の広大

な土地を購入。自宅と2000年から12年間営んだ一日ひと組限定の宿泊施設を建てることにしました。

道路から家までの間に白樺の木を植え、家庭菜園のレベルを超えた畑を作つて作物を育てる日々。宿を営んでいた頃は、訪れる人たちとの交流も大きな楽しみのひとつで、この地で積み重ねられてきた思い出は今でも大切な財産となっています。

「夏の暑いさなか、丘の上を心地よい風が吹き抜けていくとき、これ以上何が必要なのかな、と思うんです」。

四季の移り変わりと共に様変わりしていく豊頃の木々や空の色。春に芽吹いた新しい命は日ごとに力強さを増し、人工的な灯りがほとんどない夏の夜空を満点の星が彩ります。丹精込めて手ずから育てた畑の作物たちを味わう喜びを分かち合い、白樺並木の葉がすっかり大地に落ちれば、冬の到来。流れる時間さえもゆつたりとした、静寂に満ちた銀世界。凍えるような冬の日の夜は、暖かなストーブの前で語り合いながら遠い春を待つ…。自然の流れに沿った2人の生き方は、目まぐるしく過ぎ去っていく日々の中にあつて、何よりも尊く、心豊かなものに思えるのです。



すんなりと伸びた細く白い樹皮と、少しずつ色づいていく葉。秋が近づくとある日、美しい白樺並木のトンネルを抜けた先に、廣瀬さんの自宅がありました。







豊頃町 今を暮らす人々

菖蒲 淳子さん

やるからには、とことん楽しむこと

菖蒲淳子さんが、豊頃町で酪農業を営む菖蒲牧場へと嫁いできたのは2010年のこと。夫の勝幸さん、義父母、義理の祖母と淳子さんとで始まった新しい暮らし。程なく優心ちゃん、昊ちゃんの2人の子どもたちが加わって、「盆と正月が毎日一緒に来てるみたい(笑)」と、忙しくも賑やかな日々を送っています。

以前は、酪農とは全く関係のない仕事をしていたという淳子さん。「仕事が大好きだったから、最初は辞めるつもりはなかったんです」と、懐かしそうに当時を振り返ります。その心を、勝幸さんも義理の両親も、きちんと汲み取ってくれていました。

しかし淳子さんは、勝幸さんにこう言っています。「あなたはどうか考えているのか、話してほしい」。その言葉を受け取った勝幸さんは、しばらく悩んだ後に、「できれば一緒に酪農をやってほしい」と、淳子さんに本音を告げてくれたのだそうです。話し合った末に、淳子さんは仕事を辞め、酪農業に従事する道を選びました。

とはいえ、淳子さんにとってはまったく初めての世界。仕事のこと、牛のこと、そして町や地区ならではの行事や習わしなど、淳子さんは勝幸さんと義父母、地域の人々に教わりながら、一つひとつ学んでいきました。

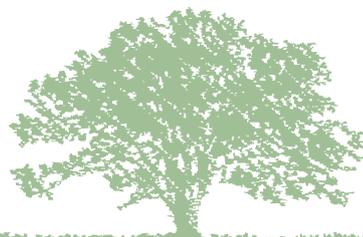
そこで発揮されたのが、「やるからにはとことん楽しむ!」という淳子さん持ち前の前向きな発想です。何気ない日々の中にもさまざまな発見や驚きがあり、そこちよつとした工夫を加えることで、たちまち「楽しいもの」へと変えていくことができると。たとえば、牛たちに「オワフさん」「黒カーリー」など、牛の個性的な特徴を捉えた、思わずくすりと笑ってしまうあだ名を付けてみるといった具合に。出産と子育てのため、ここしばらくは搾乳だけを担当していたそうですが、「最近また、仔牛の哺乳作業を受け持つようになりました」と、淳子さんは朗らかに笑います。

「分からないことは聞けば教えてもらえるし、間違っていたら指摘してくれますから」と、淳子さんはにっこり。その言葉には、支えてくれる家族、そして地域の人たちへの、確かな信頼の気持ちが込められていました。淳子さんの話を聞いていると、「知らない」からこそ感じられる、暮らしの豊かさがあるのだと思えます。それはまるで、とっておきの宝物を見つけるような感覚なのかもしれません。

「この地区(二宮)は特に結束が強くて、みんな仲良くしてくれます。大変なこともありますよ、びっくりすること、楽しいことが、いっぱいありますよ」。



写真右/つぶらな瞳が可愛い、生後間もないホルスタインの仔牛。
写真左/玄関先には、義理の祖母が育てたという花たちが美しく咲いていました。



豊頃町 今を暮らす人々

濹佐綾子さん

町に根差し、これからも町民のために

豊頃町の隣町である浦幌町出身の濹佐綾子さんの勤務先は、水道工事などを請け負う門工業株式会社。同社が運営する交通部門、豊頃交通で、事務及びタクシードライバーとして勤務しています。

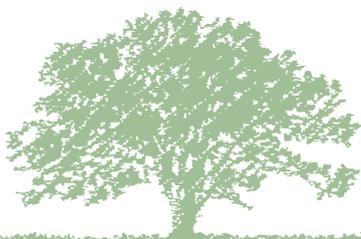
教師として働いていた濹佐さんが現職に就くことになったのは、同社を経営する濹佐家に嫁いだことがきっかけでした。「都会に住みたいと思っていましたけど、今は農家の奥さんたちとの交流が楽しくて。チーズをもらったり、鮭をもらったり……。それで母が飯寿司を作ってくれたりもしますね。あ、野菜ももちろん。海のものも山のものも揃いますよ」。小さな町ならではの温かみを感じて、保育所に入っていない子どもたちも通える月1〜2回のわんぱく広場の存在なども手伝って、「横のつながりがあるので、ママ友を作りやすい環境です」と濹佐さん。現在もほぼ毎日フルタイムで勤務していますが、友人の存在や両親の理解、町としての子育て支援などによって、楽しく子育てを行っているようです。

豊頃町は、公共交通機関がほぼありません。路線バスも高速バスも廃止され、JRの駅も、町の中心部からは少々離れているうえに、1日の便数は非常に限られています。そのため、町外への移動だけでなく、町内でのちょっとした移動も自家用車がないことには思うようにいかない状況だといいます。だからこそ豊頃交通は、タクシーやコミュニティバスの運営などを通じて、町民の貴重な足としての役割を担っています。「お年寄りや定期的な病院に通っている人も多いし、帯広まで行くのにもよく使ってもらっています」と、濹佐さん。

元々の門工業は、ストーブや水道工事など工事が必要な現場での施工がメインでしたが、今ではこの交通関連業務が、自家用車を持たない町民の暮らしを支える大切な事業のひとつとなっているのです。「町内のタクシー会社が辞めてしまうことになって。それがきっかけで、交通部門を始めたんです」。町民のニーズに応えるかたちでさまざまな交通の形を模索してきた豊頃交通。地域に根づく企業だからこそその姿勢といえるのかもしれません。



タクシーの運転はもちろんのこと、デスクワークも大切な仕事。話しているときの笑顔とは違った、真剣な顔が印象的です。





ココが好き／



菖蒲牧場

菖蒲 勝幸さん、淳子さん

う～ん、何かな？ いろいろあって迷いますが、やっぱり空ですかね～。家の窓から眺める青々とした牧草畑と、すっきりと澄んだ青い空の眺めが好きなんです。子どもの名前にも、「そら」の音を入れたくらい♪



やきとり とり良

とよさか
豊榮 良幸さん

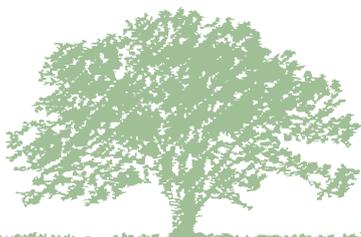
豊頃町は「人」がいい！ 何でここまでしてくれるんだろう？って思うくらい。外から来た自分を温かく迎えてくれた町の皆さんに、心から感謝しています。この場所から、もっともっと繋がり輪を広げていきたいです。



大津漁業協同組合 青年部

みちひさ
竹田 真久さん

海の上はいつだって危険と隣り合わせ。だから、仲間とのチームワークが欠かせないんです。船上では明確な役割分担があって、一人ひとりが責任を持って仕事に当たっています。仲間と喜びを分かち合えることが、サイコーです！



みなさんに
聞きました!

豊頃町の



豊頃町社会福祉協議会
山下 愛さん

私は幕別町志類から豊頃町に来たのですが、最初は不安で。でも、地元や職場の人たちが温かく迎え入れてくれて、とても嬉しかったです。外から来たからよけいにそう感じましたね。だから、町の人が大好き!



宝田農園
宝田 哲也さん

毎日目にしている広々とした風景ですが、季節やその日の気候が違えばまた違った表情を見せてくれます。農業っていう自然と向き合う仕事をしているからかな。何度見ても、飽きるってことがないですよ。



豊頃町役場
木幡 健太さん

家族=町のみんな! 豊頃町は、みんなが家族のように支え合いながら暮らす、温かい町ですよ。みんな気さくで優しく、僕もたくさんの方に助けていただいています。仕事を通して、これからもこの町を支えます!



門工業株式会社
澁佐 綾子さん

おいしいものがいっぱいあることです! ここも、ここも...あ、ここもあった! 町内のお店には、お肉も、野菜も、魚もありますね。もちろんスイーツも! 食べ物がおいしいっていうのはとても魅力的ですよ。本当は書き切れないうらいなんです。

アイシン精機の 農業体験交流研修



地域との深い繋がりの中で共に生きる

豊頃町に試験場を構える自動車部品の総合メーカーであるアイシン精機。エネルギー関連やベッド、シャワートイレなどの住生活関連など、さまざまな事業展開をしています。一方、企業市民活動として豊頃町内で農業体験交流研修を実施しています。異業種間交流によって社会人としての視野を広げ、他の職種への理解を深める場として活用しています。アイシン精機の社員数名が町内の農家のもとに職業体験に入り、受け入れ農家の畑でジャガイモの収穫や牛の搾乳、給餌などを行っています。また、地元の子どもたちへ、ものづくり出前講座を開催したり、とよこ産業まつりのスタッフとして参加することで、農協青年部や女性部との交流も活性化しています。

研修終了後は、受け入れ農家と家族ぐるみの交流も続いており、積極的にボランティア活動に参加するなどの効果も見えてきました。継続的に行ったことで、町内の農家では2世代にわたっての受け入れが実現したり、各種メディアなどにも取り上げられ、地域にも活動が浸透しています。

豊頃試験場
豊頃町湧洞1378-2
TEL.015-574-3911

豊頃町を 支える、 4つの産業

農業、漁業、林業、商業。
豊頃町の豊かな暮らしを支えるのは、
この4つを中心とした産業です。
自然と向き合い、仲間と協力し合い、
地域の人たちと密に繋がり合いながら、
人々の暮らしの基盤を築いています。



農業



漁業



林業



商業

気候も条件も その時々で変化する。 農業は、面白い。



宝田農園

宝田 哲也さん

小さな頃から、あたりまえのように両親の農作業の手伝いをしてきたという宝田さん。農園では、小麦、甜菜、いも類、豆類、大根などを主に作っています。

豊頃町の産業の中核、農業。町の耕地面積は約1万1千ヘクタール。1戸あたりの平均耕地面積は、56・2ヘクタールと広々としており、この数字からも、十勝平野の豊かな土壌を活かした大規模な農業が盛んに行われていることが分かります。

宝田農園の代表、宝田哲也さんも、町で畑作農業に携わるひとり。本別町の農業大学校で学んだ後、跡取りとして実家に戻って来ました。「小さい頃から農作業の手伝いをしていましたよ。家族みんなで働けるのは、とても楽しいです」と、陽に焼けた顔に人懐っこそうな笑みを浮かべます。

宝田さんが作っているのは、町内でよく作られている小麦やいも

類、甜菜や豆類など。そして少量ですが、トマトやオクラなどがあります。中でもトマトは、「一度食べてくれた人が、『もう他のトマトは食べられない』って言ってくるんですよ」とのこと。甘みが強くて瑞々しいトマトは、町内の直売所でも販売しているようで、とても評判が良いそうです。「自分の作ったものを、おいしいと言ってもらえる。こんなに嬉しいことはないですよ」。

宝田さんが目指すのは、「作物と畑を大事にする農業」。「ほんのちよつとしたミスから、作物をダメにしてしまうこともあるんですよ。畑のものを絶対無駄にしないように、いつも気をつけています」。そのためにも、土が健康であるこ

とも重要なポイントです。宝田さんは畑の状態やそのときの気候条件などを見ながら土壌改良を施したり、有機質を加えるなどの工夫をしてきました。

「土地が違えば、気候も、作物に適した条件もガラッと変わります。季節や年によっても。大変ですけど、そこが面白いんですよね」。そんなときに頼りになるのが、長年この土地で農業を営んできた両親や、近所の人々。安心、安全で、おいしい作物を作るため、先輩たちの知恵を借りながら、宝田さんは日々、土や作物と向き合っているのです。

こうした苦労や農業の面白さを消費者にも伝えたいと、農協青年部では地域の小学生をはじめ、道内外の学生や学校の先生を対象に農作業体験の受け入れを行っています。自分たちが普段何気なく口にかけているものが、どんな風にして作られたものなのか。参加者は楽しみながら、安心して安全な食の根本にあるものを学び取っていくのです。「食育という観点からはもちろんですが、子どもたちには、純粹に楽しい思い出を作ってほしいなって思うんです」と、宝田さんは話してくれました。



ハウスでミニトマトの手入れをする宝田さん。
イエローアイコやピッコラルーシェなど、農園のトマトは人気商品のひとつです。



市場に出荷するもののほかに、「親の趣味で(笑)」、いろいろな作物を少量ずつ作っています。

信頼できる仲間がいる。
だから楽しいし、
やりがいになる。



大津漁業協働組合 青年部

竹田 真久^{みちひさ}さん

漁師の幼馴染に誘われて、建設業から漁業の世界へと飛び込んだのは20歳の頃。それから16年、次第に楽しさややりがいを見出して今に至ります。父と共に親子船で漁に出ることも。

秋の大津は、まだ夜も明けきらない早朝から、静かな熱気に包まれていました。10数人の漁師たちが乗り込んだ船が、静かに港を離れていきます。豊頃町の秋の風物詩、サケ漁に向かうのです。

沖に出ていよいよ漁が始まると、船の上には漁師たちの威勢の良い掛け声が飛び交い、船上に漂う空気もピンと張り詰めたものになっていきます。海中から引き上げられた定置網の中には、元気に跳ね回る大ぶりのサケたちの姿。激しく飛び散る水しぶきが、ようやく顔を出した朝日に照らされて、まるで金の粉をまぶしたかのようにキラキラと輝きます。思わず息を呑むほどに美しく、生命力に満ちあふれた光景です。

20歳の頃から16年間、大津で漁業に従事している竹田真久さんもまた、この時期になると仲間と共にサケ漁へと繰り出します。父、祖父、叔父が漁師という家系で育った竹田さんですが、学校を卒業して就いたのは建設の仕事。漁師を始めたきっかけは、友人の誘いがあってのことでした。しかし、「やってみると、意外に楽しかったんですよ。頑張った分だけ、成果も上がる。今ではやりがいを感じています」と、竹田さんは屈託のない笑顔を浮かべます。

安全で、質の高い漁をするためには、仲間とのチームワークが絶対に欠かせません。船のこと、海のことにも精通した、沖の最高責任者である船頭を筆頭に、下

船頭や機関士など、「船の上では、明確な役割分担が決められているんです」と、教えてくれた竹田さん。美しく、豊かな恵みをもたらしてくれる海ですが、一歩間違えば大きな事故に繋がりがかねないのも事実。ひと時も気を緩めることはできません。一人ひとりが、自分の役割を、責任を持って果たす。その結果、強い信頼関係が生まれ、豊漁の喜びを心から分かち合うこともできるのだと感じます。

大津の海は、シシャモ、ツブ、ホッキ、タコやスケソウダラなど、さまざまな魚介類の宝庫。中でも8月下旬から10月にかけて水揚げされるサケは、生産高の8割以上を占めるといいます。そのため、サケの水揚げ量によって漁業経営が大きく影響を受けてしまうという難点も。現在は、クロソイやマツカワなどの中間育成・放流事業の実施により、「育てる」漁業にも力を入れるようになりました。

また、「若い人にこそ、漁の面白さを感じてほしい」と竹田さん。その一環として、大津の新鮮な魚介類がずらりと並び、「直販まつり」や「大漁まつり」を、毎年開催。大津ブランドのすばらしさを、地元のみならず十勝へ、そして全国へと伝えています。



秋サケ釣りの船に乗せてくれたのは、前川啓一さんたち。
朝日に煌く水しぶきに、大津の海の豊かさが感じられます。



水揚げされたサケは港でサイズごとに仕分けられます。
9月の週末、漁師の奥さんたちが集まって直売所を開くそうで、この日も早朝から港は大賑わいでした。

山を守り、 山と共に 歩んでいく



坂口苗圃
坂口 充宏さん

家業を継いで林業を営む坂口さん。年に何度かは家族で山に行くそうで、「幸い、息子も今のところは林業を継いでほしいよと言ってくれています」とにっこり。木のサイクルは、父から子へと受け継がれていきます。



写真右上／山の景観を守ることも、林業が担う大切な役割。
写真右下／町では定期的に植樹のイベントが行われています。
写真左／坂口さんが出荷するカラマツは太く質が良いと好評です。



町全体の約6割、約3万3千ヘクタールを森林資源が占める豊頃町。やや腐食質に富む砂壤土が分布する丘陵地帯は、木の育成に適していると言われています。森林面積のうち、人工林の割合は約37%。その約8割がカラマツ林です。住宅用の建材としてカラマツの利用が推進される中、これからさらなる付加価値の向上が期待されています。

坂口充宏さんも祖父と父が繋いできた家業である林業を受け継ぎました。3代目として現場に立ち、汗を流しています。

カラマツのサイクルは40〜50年。畑作などと比較しても、そのサイクルはずっと長いものです。植樹してから製品になるまで、間伐や草刈りなど長い投資と根気が必要となります。今伐採している木も、祖父や父の代に植えられたもの。「こんなところにも、じいちゃんに来ていたのかな、なんて思うこともありますね」と、坂口さんは朗らかに笑います。

100年先を見据えて木を植え、森を健康な状態に保つこともまた、大切な使命。世代を超えて受け継がれていくサイクルを絶やさないために、私たち一人ひとりができることを考えていきたいものです。



やきとり とり良
とよ さか
豊 榮 良 幸 さん

2014年4月にとり良をオープン。道内、全国各地の食材を使った料理を提供しています。豊頃町唯一のやきとり屋であり、町民の憩いの場です。「お客さんとの会話がとても楽しい」と笑顔で話してくれました。

豊頃町茂岩本町11
TEL.015-574-2070
営業時間 / 17:00~24:00 (L.O.11:30)
定休日 / 月曜
席数 / 80席

お客様は家族。
気軽に行ける、
まちのやきとり屋さん。



一番人気は『天然馬刺』。カウンター、小上がりのほかに、カラオケルームや座敷などもあるので、大人数でも利用することができます。

ふとした時に思い出されるのは、おいしい手料理と、気さくに迎えてくれる店主の笑顔。特別に規模が大きいわけではないのだけれど、何となく落ち着けて、自然と温かい気持ちになれる…。地元民の行きつけの店というのは、そんな場所が多いように思います。

豊榮良幸さんが切り盛りする店、『やきとり とり良』も、そんな店のひとつ。「特別な日じゃなくても、家族で来て、気軽に食べられるものを」と、焼き鳥を中心としたメニュー構成でさまざまな料理を提供しています。家族が飲食店を営んでいたりと、自身も居酒屋チェーンで店長を務めたりと、10年以上にわたって飲食の世界に携わってきた豊榮さん。素材として使うのは、自分自身が「食べた」と思ったものばかり。「北海道日本にはこんなにおいしいものがある。それを、この店から発信していきたい」と、口調にも熱が入ります。

「お客さんも家族のような存在です。だから、できることは細かく応えていきたい。そして10年、20年後に思い出して、また来てくれたら嬉しいですね」。豊頃町の商店街で、豊榮さんは今日も暖簾を掲げています。

エコERCの 北海道産なたね油



無添加にこだわった、豊かなうま味と風味

エコERCのなたね油は、100%北海道産。契約農家で栽培された非遺伝子組み換え品種の「キタノキラメキ」をはじめ、「キザキノナタネ」や「キラリボシ」を使用して作られます。一般に使用されている多くのなたね油と異なり、無添加・低温圧搾製法で作られるため、なたね本来の栄養成分が豊富に含まれることが特徴。加熱に強く劣化しにくいので揚げ物もカラリと仕上がりが、生食用はドレッシングとして野菜にかけただけで、大地のエネルギーそのものの風味を楽しむことができます。

手間と時間をたっぷりかけることで出来上がった、身体に優しくおいしい、エコERCのなたね油。さらに、使い終わった油はバイオディーゼル燃料(BDF)へリサイクル。化石燃料に頼らない再生可能なエネルギーを、十勝管内のみならず全道各地へと届けています。

豊頃工場のBDF製造量は国内トップクラスで、さらに独自の技術によって高品質なBDFを実現。冬期間はBDF5%混合軽油の販売も行っています。エコERCは人にも環境にも優しい、持続可能な地域づくりに貢献していきます。

エコERC

豊頃町茂岩49-16(豊頃工場)
TEL.015-579-5511
<http://www.ecoerc.com>

※とよころ物産直売所でも購入できます。



える夢館



生涯教室&豊寿大学



こどもプラザとよころ

豊頃町の 笑顔が集まる 場所



豊頃町社会福祉協議会



喫茶ふわり



とよころ物産直売所



長節湖キャンプ場管理施設
いんがるし〜長節



1F

- はるにれ通り
7カ所に壁面展示ができます。作品展、個展などの開催も可能です。
- 図書館
はるにれをイメージした円形の図書館。AVコーナーやパソコン学習コーナー、児童向けのおはなしのへやもあります。
- はるにれホール
可動席220席、前列椅子席100席、親子席8席の328席。
- その他
控室、リハーサル室、調理実習室、委員会室、キッズコーナー、ラウンジ。

2F

- 歴史の森
豊頃町の歴史を知る、映像や資料などの展示コーナー。
- 研修室
21畳の和室2部屋があり、50人規模の打ち合わせなどが可能です。
- 視聴覚室、交流室、会議室
パソコンを使った60人規模の会議、研修から100人の映画観賞まで幅広く対応します。

屋上

- 屋外ステージ
芝生、小規模な野外ステージがあります。



自ら求めて学ぶ気持ちを尊重し
未来に夢を持つ
まちづくりをめざします

える夢館



家族、学生、おじいちゃんおばあちゃん…。える夢館を訪れる人々はさまざまです。目的に合わせて好きなだけ学ぶことができます。える夢館は町の中心的なスポットとして、町民に愛される存在となっています。

豊頃町茂岩本町166
TEL.015-579-5801(豊頃町教育委員会)
TEL.015-579-5802(豊頃町図書館)
開館時間/9:00~21:00(図書館は~18:00)
休館日/毎週月曜、祝日の翌日
※図書館以外の施設をご利用の際は、豊頃町教育委員会までお申し込みください。

2002年1月に、それまでの社会福祉センターに代わり、より充実した学習を行える生涯学習施設として誕生した、「える夢館」。以来、10年以上に渡って、町民の憩いの場所であり学びの場として、町の元気を支えてきました。今も多くの人がえる夢館を訪れ、趣味や文化活動にいきいきと取り組んでいます。

上から見ると大きな円を描く独特の形をした館内には、郷土資料など豊富な蔵書を誇る図書館をはじめ、演奏会なども開ける多目的ホール、町の歴史を気軽に学べる展示コーナー「歴史の森」や研修室、リハーサル室など用途に合わせて使えるさまざまな設備があります。また、屋上

には屋外ステージも設けられており、美しい空の下で野外コンサートなどを開くことも。豊寿大学や生涯学習、える夢出前講座などの学習拠点としても、有効活用されています。

その他町内の施設でも人々が自ら学べる機会を提供。生涯学習のための指導者の発掘や養成、そして身に付けた知識や技能を活用していくための積極的なサポート体制が整えられています。

選べるコンテンツを豊富に、そして多様性を持つこと。学ぶ機会をなるべく多く用意すること。そうすることで、自ら求めて学ぼうとする人々の姿勢を、どんどん応援していきます。



仲間どうして集まってサークル活動に没頭したり、例会を開いたり。
える夢館の使い方は、多種多様です



図書館

蔵書は約40,000冊。月ごとにテーマを決めて行われる展示もお楽しみに。



はるにれ通り

館内の廊下などをギャラリーとして開放しています。絵画展や写真展も開催中です。



空の広場

青空の下での催し物は、気持ちもぐんと上向きに。より特別な時間を演出してくれます。



歴史の森

豊頃町の歴史的な資料が展示されているスペース。無料で観覧することができます。



はるにれホール

講演会や音楽会をはじめとする町内の各種文化活動に幅広く利用されています。

える夢館には
目的に合わせて
利用することが
できるさまざまな
設備があります。



学ぶ^{よろこ}喜びをいつまでも。
町民のいきいきとした人生を
応援します

生涯教室 豊寿大学



豊頃町には元気なおじいちゃん、おばあちゃんがいっぱい。その秘密は、教育委員会で実施している生涯教室と豊寿大学にありました。趣味に、勉強に、仲間とのおしゃべり。いくつになっても、楽しむ心を忘れずに。

【生涯教室・豊寿大学】

対象／概ね60歳以上の町民
お問い合わせ／豊頃町教育委員会(TEL.015-579-5801)

もっと勉強してみたい。こんなことに挑戦してみたい。年を重ねても、いえ、重ねてきたからこそ、培われた好奇心。でも、ひとりではやるにはちよと味気ないし…。そんなあなたに紹介したいのが、豊頃町の生涯教室と豊寿大学です。生涯教室は、各地区に設けられた教室を拠点とし、勉強会や奉仕活動、レクリエーションなどの年間プログラムを組んで行われます。取り組みは基本的に、自主活動・自主運営。各教室に所属したメンバーの中から、学級長などの役割を決め、活動は教室ごとに年10回となっています。

豊寿大学は、おじいちゃんおばあちゃんが入学できる大学です。写真や手芸、社交ダンスなどなど、科目は全部で8クラス。4年制で、どこでも自分が好きな教科を選ぶことができます。年に一度行われる学習発表会は、1年間の成果をみんなの前で披露する、とっておきのイベントです。「仲間ができるのが、一番楽しい」と、生涯教室、豊寿大学に集う人々が口々に話してくれた言葉。生涯を通じて、夢中になれる生きがいがあること。仲間と共に学び、挑戦することの楽しさ。皆さんのいきいきとした表情と真剣な眼差しが、とっても印象的でした。

豊寿大学

選択教科

- * 器楽科
- * 音楽科
- * 社交ダンス科
- * 舞踊科
- * 写真科
- * 文学科
- * 書道科
- * 手芸科



生涯教室

教室

- * 十弗生涯教室
- * 豊頃生涯教室
- * 茂岩生涯教室
- * 大津生涯教室
- * 農野牛中央生涯教室
- * 統内生涯教室
- * 二宮生涯教室

活動内容例

- * 奉仕活動
- * 軽スポーツ
- * 清掃活動
- * 町内外バス学習
- * 施設見学
- * 屋外スポーツ
- * 安全な生活
- * しめ縄作り
- * 行政相談
- * 町政を聞く
- * 金次郎体操ゲーム
- * 健康管理
- * 交流学习
- * 映画鑑賞

私たち、
大学生です！

豊寿大学の授業風景を覗いてみました



写真

渾身のベスト
ショットは…!?



器楽

はるにれホール
にて練習中♪



手芸

みなさん、手先
が器用ですね！



舞踊

着物を着て、
おしとやかに。



社交ダンス

笑いの絶えない、
賑やかクラスで
す。



書道

お父さんたちも、
とっても真剣で
す。



文学

編集長もいる、
本格派です。



声楽

つまりカラオケ。
美声ぞるいです
よ～。



1F ●茂岩保育所

2F ●子育て支援センター
●ことばの教室
●学童保育所



子どもたちの笑顔が 輝くまちへ

児童福祉施設 こどもプラザとよころ



こどもプラザとよころにはさまざまな児童福祉施設が集められ、家庭事情や成長具合、子どもの年齢に応じたサービスを提供しています。

豊頃町茂岩栄町4
TEL.015-574-3931

こどもプラザとよころは、閉校した旧茂岩小学校を改築し、再活用する形で2007年に開館。福祉サービスを提供する窓口がひとつになったことで、「ますます便利になった」という利用者の声も多く聞かれるようになりました。また、小学校からの通学バスが通っているため、学童が放課後に気軽に遊びに訪れることができるというのも嬉しいポイントです。子どもたちにとってだけでなく、子育てを頑張る保護者の交流の場づくりも、子育て支援における重要な要素。育児相談ができる子育て支援センターや、親どうしが交流を深めることができるわんぱく広場など、仕事に家庭に育児に大忙しの保護者たちをサポートしてくれる、心強い味方なのです。「今後はますます保護者のライフスタイルに合わせたサービスを行えるよう、務めていきたいです」と、職員の皆さんは話してくれました。

子どもたちの純粋な笑顔を見ると、私たちの心、そして地域全体をも明るく照らしてくれるような気持ちになります。子どもどうし、親どうし、親子や地域の大人たちが互いに交流を持ち、心と心が繋がり合う時間を過ごすこと。忙しい現代では忘れがちになってしまうことです。それは、豊かな心と社会を育むために、欠かせないことではないでしょうか。こういった結びつきを強めながら、豊頃町も子育てに優しいまちへと変わりつつあるのです。

取り組みいろいろ



■七夕まつり



■ひな祭り



■豆まき



みんなで わいわい！ 楽しい うどん作り

この日、える夢館の調理場では子育て支援センターと町の教育委員会が主催する、親子うどん作りが行われていました。「おいしくな〜れ」と、魔法の言葉を唱えながら、小さな手足をいっぱいに使って生地を捏ねる姿に、微笑ましい気持ちでいっぱいになります。出来上がったアツアツのうどんを前に「いただきます！」と元気に手を合わせる子どもたち。「イベントのときは、嫌いな野菜も全部食べてくれるんですよ」と笑うスタッフの優しい笑顔に見守られながら、おいしいひと時を過ごしました。



サンタさんと 一緒に！ クリスマス会



毎週木曜日にはプレイルームが開放されます。子どもたちを遊ばせながら親どうしでおしゃべりを楽しめるわんぱく広場の時間です。さまざまなイベントが開催されていますが、中でも盛り上がるのが毎年12月に行われる、恒例のクリスマス会です。サンタさんから一人ひとりへのとっておきのプレゼントをもらった後は、みんなでおいしいケーキをお腹いっぱい味わいます。子どもたちもおおはしゃぎで、そんな子どもたちを見守る保護者やスタッフたちも嬉しそうでした。





健康で明るく、元気なまちづくり

豊頃町 社会福祉協議会

豊頃町茂岩栄町102(豊頃町福祉センター内)
TEL.015-574-3143



豊頃町社会福祉協議会(社協)は、地域の社会福祉事業の推進・拡大・PRを行っている民間福祉団体です。地域の中で抱えている問題についてみんなで考えながら、協力して運営されています。

地域のボランティアが中心となって、子どもからお年寄りまで誰もが気軽に楽しく過ごせるほっとサロン事業の展開。ボランティアの作った昼食を食べたり、健康体操や工作などを行う、ひとり暮らし高齢者ふれあい昼食会の開催。いきいきと健康な生活を送っていただけるよう、高齢の方に介護予防や健康増進を呼びかけるなど、その活動内容はさまざま。自称代表取締役のトヨッピーは職員の手づくり着ぐるみで、イベントなどでも人気者です。



木の温もりあふれる喫茶店で、
ゆったり時間を

喫茶ふわり

豊頃町茂岩本町26(豊頃町はるにれ友遊館内)
TEL.015-578-7777
営業時間/10:00~15:00
定休日/土・日曜、祝日



「豊頃はるにれ友遊館」の中にある喫茶ふわり。道産のカラマツ材を中心に使用して造られた、木のやさしい温もりを存分に楽しめる空間です。店舗内にはベレットストープも設置されています。

喫茶ふわりは、障がいを持つ人たちの自立支援の場として平成22年に開店。障がいを持つ方とボランティアのお母さんが協力して、カレーライスやナポリタンなどのメニューを提供しています。

オープンスペースもあるので、団体やサークル単位での利用も可能。会合やミーティング、イベントなど、活用方法はいろいろです。喫茶ふわりは町内、町外の人とのコミュニケーションの場所としても愛されている場所なのです。

●とよころ物産直売所

地元の農産物や魚介類、工芸品などを購入できます。

●食彩はるにれ

名物の手打ちそばや、魚介のうま味が凝縮されたカレーなど、食事メニューも充実。

●はるにれソフトクリーム

とんがり屋根が可愛いお店。あっさり味のソフトクリームをぜひ。

地元の農家さんが直接持ち込む新鮮な野菜が各種そろった直売所。町内で人気の加工品も多数販売しており、町外から訪れる人も多くいます。道産材を使った木造平屋の建物は、天井も高く広々としていて、ゆつくりと買い物を楽しめる雰囲気。敷地内には「食彩はるにれ」、「はるにれソフトクリーム」などの飲食店もあり、ホッキカレーや手打ちそばなどの人気メニューを味わったり、さっぱりとした味わいのアイスを食べたりすることもできます。地元の人たちは日々の食材の買い出しに、観光客は豊頃ならではの土産を求めて。ここはいつも、たくさんの人々の笑顔で賑わっています。

豊頃町の「食」がそろって、
買い物スポット

とよころ物産直売所



国道沿いにあり、ドライブの際の休憩所としても活用されている直売所。豊頃の旬の味覚はすべてここでそろってと言っても過言ではありません。

豊頃町茂岩新和町
TEL.015-574-2206(豊頃町商工会)
営業時間/10:00~17:00(営業期間/4月末~11月中旬)
営業日/金~日曜、祝日のみ営業

地元産の食材中心のお食事処

食彩
はるにれ



■ホッキカレー



■手打ちそば



■パニーニ



はるにれ
ソフト
クリーム

あっさりとした甘さが人気

地元の農・海産物が勢ぞろい

物産
直売所





長節湖をもっと楽しむための、
サポート施設ができました
長節湖キャンプ場管理施設
いんかるし〜長節

営業時間/10:00~15:00
TEL.015-575-2329

※お電話にて、バンガローの予約を承ります。
※7月中旬~9月中旬は毎日営業。それ以降は土・日曜、祝日のみの営業となります。
※冬期間は休業です。



2014年にオープンした、長節湖キャンプ場管理施設、いんかるし〜長節。インカルシーとはアイヌ語で「眺望できる場所」という意味です。その名前の通り、湖に面して大きく取られた窓からは、雄大な海の姿を見ることが出来ます。キャンプ場内のバンガロー予約受け付けの窓口となっているほか施設内にはプチャカフェが設けられており、コーヒーやかき氷を販売。美しい景色を眺めながら、のんびりと過ごす時間もまた、良いものです。キャンプ場を利用する人だけでなく、誰でも自由に利用することが出来る施設。2014年に行われた全道サイクリング大会の立ち寄りスポットにもなりました。



茂岩高台多目的運動広場

豊頃町茂岩49(茂岩山自然公園内)
TEL.015-574-2215(豊頃町役場施設課)
試用期間/4月下旬~11月上旬
施設概要/サッカーコート1面(練習用サブグラウンド有)



パークゴルフ場

豊頃町茂岩49(茂岩山自然公園内)
TEL.015-574-2882(茂岩山グリーンハウス)
使用期間/4月下旬~11月上旬
使用料/無料
施設概要/ホール数36、パー144、距離1,605m、
ロング80m
※用具の無料レンタルも行っています。



野球場

豊頃町茂岩49(茂岩山自然公園内)
TEL.015-574-2480(総合体育館)
使用期間/5月~10月
施設概要/
▶少年、一般軟式野球
▶内外野フェンス、ダグアウト、本部席、両翼91m
利用申込/事前にお申し込みください。



森林公園キャンプ場

豊頃町茂岩49(茂岩山自然公園内)
TEL.015-574-2111(十勝ロイヤルホテル)
使用期間/4月下旬~11月上旬
使用料/■キャンプ場 1日1夜 300円
■バンガロー A(8人用) 日帰り2,500円、宿泊5,000円
B(6人用) 日帰り2,000円、宿泊4,000円
C(4人用) 日帰り1,500円、宿泊3,000円
■寝具 1日1式(マット、毛布、枕) 600円



町民プール

豊頃町中央若葉町22-1(豊頃小学校内)
TEL.015-574-4788
開館時間/13:00~20:00
※土・日曜、祝日、小学校夏季休館中10:00~
開館期間/6月1日~9月30日
使用料/町民無料
施設概要/25mプール4コース、幼児用プール、採暖室



総合体育館

豊頃町茂岩本町167 TEL.015-574-2480
開館時間/9:00~21:00(月曜のみ~17:00)
閉館日/祝日の翌日、12月30日~1月5日
施設概要/アリーナ(バスケットボール・バレーボール・テニス各2面・バドミントン6面)、
トレーニング室、小体育室、走路(1周130m)、
研修室、男女ロッカー室
利用申込/使用希望日の7日前までにお申し込みください。

豊頃町

「移住体験」の すすめ。

豊頃町では2棟の素敵な住宅で
移住体験ができます。

時間がゆつくりと流れる

北国の田舎まちで、

これからの生活を考えてみませんか？



1 カラマツの家

北海道産のカラマツをふんだんに使用した温かみのある住宅。備え付きの家具も充実し日当たりもよく、季節によっては農園で採れる野菜も味わえます。

2 土間のある家

レンガ敷きの土間でくつろげる、木のぬくもりいっぱいの家。敷地内には農園もあり、畑づくりなどの体験もできます。

利用条件

- * 豊頃町農ある暮らし移住等体験用住宅設置要綱の内容を遵守していただける方。
- * 北海道や十勝への移住、二地域居住に関心のある方。
- * 事業の趣旨に賛同してアンケート調査にご協力いただける方。
- * 聞き取り調査や、ホームページへの写真等の掲載、調査データ等の活用に対する承諾、マスコミ取材へのご協力をいただける方。

申し込み方法

豊頃町役場企画課(015-574-2216)に体験住宅の予約状況を確認の上、体験住宅借用申請書に体験住宅を使用する方全員の住民票の写しを添えて提出してください。

医療

- * 町立豊頃医院
内科・小児科
- * 豊頃町歯科診療所
歯科・小児歯科

町民誰もが健康で安心して暮らせる町づくりを目指して、町立豊頃医院、大津診療所および豊頃町歯科診療所を開設。良質な医療を提供できる体制の確立に努めています。また、町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、中学校卒業までの医療費無料化を図っています。



福祉

- * デイサービスセンター 1カ所
- * グループホーム 1カ所
- * 特別養護老人ホーム 1カ所
- * 地域密着型
介護老人福祉施設 1カ所
- * 福祉活動拠点施設 1カ所

素敵に年を重ねてきた、おじいちゃん、おばあちゃん。いつまでも元気でいてほしいから、豊頃町は福祉政策にも力を入れています。さらに、やりがいを持って日々を楽しめるように、豊寿大学や各種サークル活動なども開催。趣味を同じくする仲間と一緒に過ごす時間は、掛け替えのないものです。



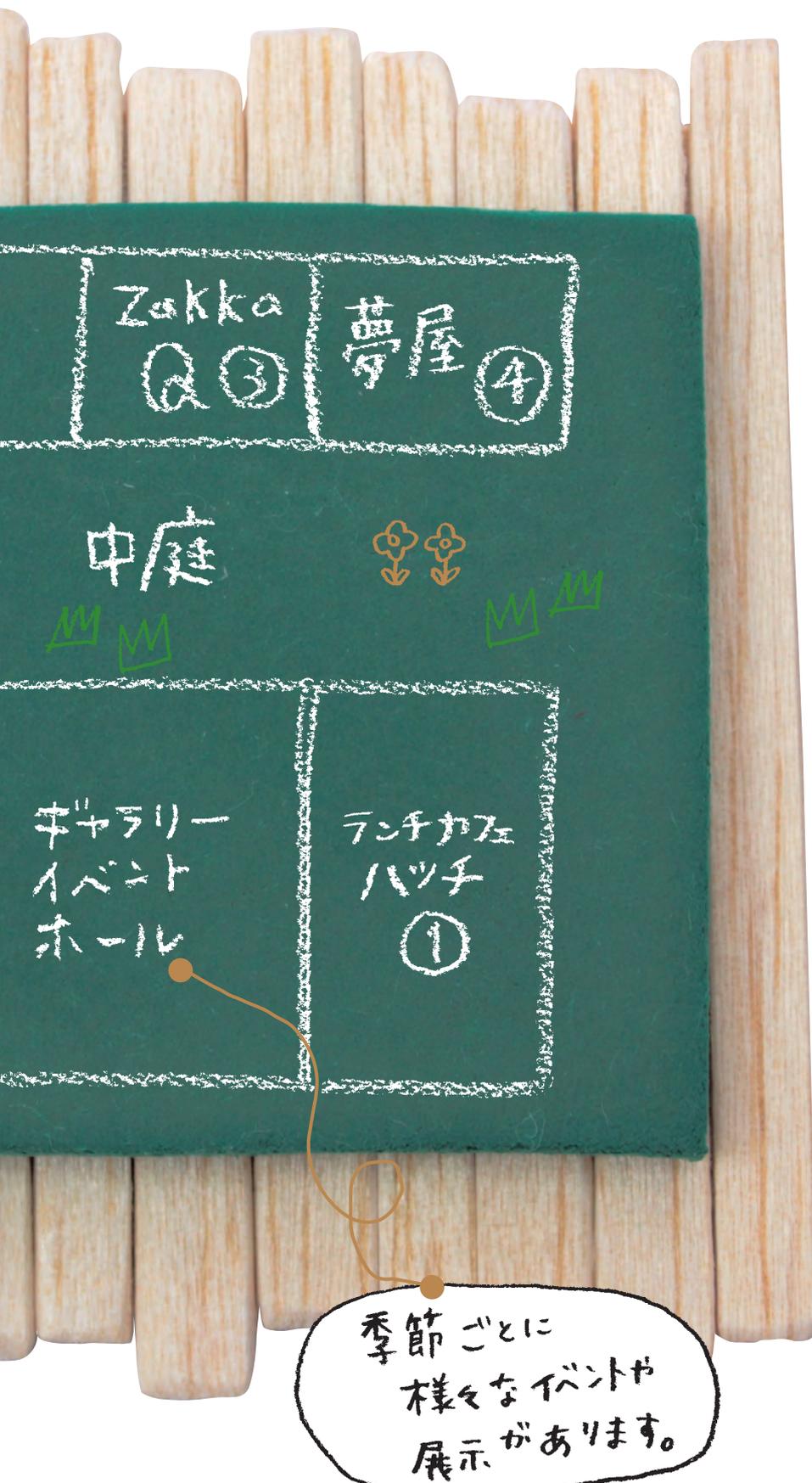
教育

- * 町立保育所 2カ所
- * 町立小学校 2カ所
- * 町立中学校 1カ所

のびのび元気に育つ子どもたちは、豊頃町の宝物。子どもたちがいきいきと、夢に向かって進んでいける町であるよう、町では、教育に関するさまざまなサポートを行っています。また、「サケ学習」など、第一次産業従事者が多くを占める豊頃ならではの、食育への取り組みも積極的に行っています。



豊頃町をもっと楽しめる
 素敵な廃校舎「とかるね」って
 どんどころ？



① ランチカフェ ハッチ

■ランチ・スイーツ

ゆっくりのんびり、 寛ぎのひと時

廃校内の部屋を利用したカフェ。ランチメニューが充実しているので、お昼ご飯に最適。人気のプリンや焼き菓子はテイクアウトもできます。また、クリスマスや誕生日のオリジナルケーキの販売もしています。



TEL.015-579-5440
 ☎11:00～17:00(L.O.16:30)
 休火曜・第3月曜

② アロマテラピー& リフレクソロジー くゆり

■アロマ&リフレ

癒しの時間をこんな 場所で過ごしたい

完全予約制の女性専用サロン。アロマオイルトリートメントと英国式リフレクソロジーを受けることができます。緑に囲まれた廃校の一室。休日のリラックスタイムを、隠れ家的な雰囲気を楽しむことができます。

TEL.090-9083-8723
 Mail:kuyuri@docomo.ne.jp
 ☎10:00～17:00(最終受付15:00)
 休月、火曜(不定休有り)
 ※女性専用サロンです。

とかるねでは、イベントの企画・運営を承っています。美術、写真、焼物、音楽、演劇等、さまざまなアーティストのネットワークを活かして、要望に応じたイベント企画をつくります。詳細はお問い合わせください。



とかるね 豊頃町統内1515
TEL.015-579-5440

旧小学校を
利用した
文化発信空間!!

アート作品や
当時の小学校の
卒業制作などが
並べます。

③ 雑貨Q

■手作り雑貨

手作り人にとっての 交流空間

作り手を応援したいという店主の思いが詰まった雑貨店。ガラス食器や陶器、木工品、羊毛フェルトなどジャンルは様々。ボタンや金属パーツなどハンドメイド素材も多数揃っています。



TEL.015-578-7260
Mail: info@french-q.com
● 10:00~17:00
● 火曜、第3月曜

昭和37年
当時の無垢木
の廊下に
注目!!



渡り廊下

くやり

②

入り口

革靴を脱いで
中に入ります。

④ アンティークショップ 夢家

■古道具

古物好き垂涎の空間

アンティーク家具や照明、古道具が所狭しと並ぶ空間は、古物好きにとってはたまらない空間。眺めているだけでワクワクするような品物の数々。たくさんの中から気になるものを発見してみてください。

TEL.015-579-5440
※不定期営業のため、気になる方はスタッフまでお声掛けください。

天然記念物の野鳥5種が集う 豊かな恵み育む豊頃町で…。

貴重な鳥たちが集う町でもある豊頃町。

町外、道外からたくさんの野鳥愛好家が詰めかけ、
静かに野鳥を観察する。

そんな知る人ぞ知るツアーに同行した。





帽子、手袋が欠かせない寒さ。北海道の気候だからこそ観察できる鳥たちの姿に、感動し通しの参加者たち。

初冬を過ぎ、そろそろ本格的に冬が始まるうかとしている11月。豊頃町を含む4町で、天然記念物野鳥観察ツアーが開催されていた。幕別町、音更町、豊頃町、浦幌町をまたがって開催されるツアーの行程の中では、世界中でも同じ地域で生息するのは道東だけだとも言われている5種の天然記念物の野鳥を観察する。もちろん、野鳥なので、5種全てを必ず観察することができるとは限らない。しかし、十勝川温泉から始まるバスツアーには、約30名の参加者が集まり、この地域に生息する野鳥への関心の高さをうかがわせた。

午前9時半頃からスタートする1日の行程。貸切バスに乗って十勝川沿いに野鳥の観察ポイントをチェックしていく。豊頃町に入る頃にはちょうどお昼どき。参加者たちは「える夢館」でお弁当を食べて腹ごしらえをしてから、町内徒歩圏内でのスイーツめぐりを楽しんだ。野鳥観察がもちろんメインだが、町外からの参加者たちにとっては、バス旅での空き時間は貴重な買物タイム。13時をまわった頃、町内の野鳥観察ポイントへとバスが出発した。

まず、大沼へと向かう最中、町の中心部からさほど離れていない、何の変哲もない畑の真ん中にタンチョウを発見。バスがスピードを緩めると同時に、ワツと立ち上がってカメラを向ける参加者たち。運営スタッフがバスから降りて望遠鏡をセットすると、次々に覗き込んで喜びの声をあげる。豊頃町によろこそ、といったところか。



タンチョウは、町内でよく目にすることのできる鳥。国の天然記念物に指定されており、道外ではなかなか見られないとあって、特に本州からのバードウォッチャーたちにとっては嬉しい出会いだ。

バスは農道を器用に走りながら、大沼、三日月沼と場所を移し、とある観察ポイントへ。車中でも、誰かが動物を発見するたびに立ち上がり、双眼鏡を構える姿が見られた。移動中でも油断できないのは、



1日の滞在でも、多種多様な野鳥に出会うことができた。改めて見てみると、いつも見ていた景色が違って見える。鳥に詳しくなかったとしても、十分に楽しめる、充実の内容だ。

豊頃町で見られる!

天然記念物の

野鳥5種



タンチョウ

全長約1.5メートルの大型の鳥。頭頂部が裸出しているため、皮膚の色が赤く見える。つがいは一生添い遂げるという珍しい習性を持ち、縁起のよい鳥として珍重される。



ヒシクイ

冬に日本へやって来る渡り鳥の一種。体全体は渋い褐色。ガンの仲間ではあるものの、嘴が黒いので、マガンとの区別は明らか。オオヒシクイと非常によく似ている。



マガン

全長70センチメートルほどの、渡り鳥。嘴がオレンジやピンクがかった色をしている。時には数千羽が群れを成して飛ぶ。隊列を成すその姿は見事なもの。



オジロワシ

体全体が茶色がかっているのが特徴。オオワシほどではないが、嘴は黄色で、その名のとおり尾羽が白い。木にとまっていると保護色で見つけにくい、よく見るとそこら中にいた、なんてことも。



オオワシ

羽を広げると2メートルを超える、日本で観察できる最大級の野鳥。大きく鋭い嘴と、睨みつけるような眼光をもち、樹上に鎮座する姿はとても勇壮。

写真提供/アークコーポレーション(株)

野鳥観察のマナー

- ▶ 生態系を崩さないよう、動植物の採取は決してしないでください。
- ▶ 鳥たちのテリトリーでは大きな音などを立てず、静かに観察しましょう。
- ▶ 危険を避けるためや、畑を荒らさないためにも、道を外れないようにしましょう。
- ▶ 写真などを撮る際には、鳥たちや周囲の環境に十分配慮してください。
- ▶ 営巣中など、デリケートな状態の鳥たちにストレスをかけないようにしましょう。



町内には想像以上に多くの動物が生息しているから。一瞬のタイミングを逃すまいと、参加者に混じって目を凝らす。農道の両側にある観察ポイントには、たくさんのマガンやヒシクイが群れを成して飛んでは羽を休め、ひとところに集まっていた。歓声をあげる参加者たち。

野鳥に疎い人々にとっては、これらの鳥は、あまり印象に残らないかもしれない。というのも、形はカモのようでもあり、色は茶色やグレー、白など、周囲の風景に溶け込んでしまうような配色だからだ。しかし、ここでも参加者たちは喜々として双眼鏡を覗き込んで、連れ合いと野鳥談話を繰り広げたり、夢中でカメラのシャッターを押したりしている。

「あっ!」。双眼鏡を覗いていたひとりが声を上げ、一斉にみんながそちらを見る。そうすると、世界的にも珍しく、日本ではほとんど観察されたことのない「ある鳥」が、群れの中に1羽紛れ込んでいることがわかった。どよめきが起こる。冬用のウィンドブレーカーを着ていてもなお刺すように冷たい風が強く吹いている農道の中にありながら、一心に野鳥を観察する時間。「この鳥は本当に貴重だから、あまり言わないようにしてるんだよ、実は」。運営スタッフの中の一人が、冗談めかして話してくれた。どんな鳥を見ることが出来るかは、参加した人だけのお楽しみ、ということだ。この日の日程は、このあとまだまだ続く予定だった。しかし、湧洞沼や大津港な

ど、海沿いのほうへと場所を移すはずの行程は、ここでの観察をもってタイムアップとなってしまった。それほど、参加者は夢中になって野鳥を観察していた。そして、帰路に名残惜しげな声こそあったものの、行程が変更になってしまったことに対する不満などが聞こえてこなかったのも印象的だった。誰もが、豊頃町での体験に満足している様子だった。町民であれば見慣れているはずの野鳥は、外からの視点ではこんなにも魅力的に映る。新しい豊頃町の美しさを発見できたツアーでもあった。

■天然記念物野鳥観察ツアー

毎年3月・11月 ※天然記念物5種が見られる可能性が高い時期

野鳥ガイドが同行し、観察スポットや鳥の豆知識などをガイドしながらみなさんをご案内します。移動は全て貸し切りバスです。タンチョウ、ヒシクイ、マガン、オオワシ、オジロワシの天然記念物5種の野鳥の他にも、キタキツネやエゾシカ、運がよければサケの遡上や産卵を観察することもできます。小雨でも決行しますが、気象条件によっては中止となる場合があります。

お問い合わせ・申込み先

東十勝ロングトレイル協議会事務局(豊頃町商工会内)

〒089-5312 豊頃町茂岩本町135番地1 TEL.015-574-2206 FAX.015-574-3776

3 喫茶ふわり



障がいを持つ人たちの自立支援を目的とするふわり。木の優しい温りに包まれて味わう、カレーライスやナポリタンをぜひ。

豊頃町茂岩本町26(豊頃町はるにれ友遊館内)
TEL.015-578-7777
●10:00~15:00 ●土・日曜、祝日

2 やきとり とり良



旧とり好の店舗に、新たにオープンしたとり良。鳥串やから揚げ、馬レバーなど、選りすぐりのメニューで至福のときを。

豊頃町茂岩本町11 TEL.015-574-2070
●17:00~24:00(L.O.11:30)
●月曜

1 食彩はるにれ



手打ちそばやホッキカレーなど、地元産中心の手づくり料理を楽しめる食堂。素材へのこだわりと、お母さんたちの人柄が魅力です。

豊頃町茂岩新和町 TEL.015-574-2206
●10:00~17:00(営業期間/4月末~11月中旬)
●金~日曜、祝日のみ営業

イブマップ Toyokoro Drive Map



える夢館



ハルニレの木



物産直売所



9 赤胴ラーメン



開店から30年、両親から引き継いだ味を守り続け、多くの常連さんたちから愛されています。

豊頃旭町238 TEL.015-574-2197
●11:00~20:00(月曜~14:00)
●不定休

8 こだわりの店 はらっぱ



雑木林の中にたたずむお店。十勝産小麦と町内産野菜をたっぷり使った手作りピザがおすすめ。羊羹やシフォンケーキもあります。

豊頃町二宮153 TEL.090-5220-7218
●11:00~16:00
●土・日曜

7 豊月



求肥で生クリームとスポンジを包み込んだピローは、洋と和が口の中でハーモニーを奏でる、ふ~わふわのお菓子です。

豊頃町茂岩本町127 TEL.015-574-2150
●8:30~19:00(日曜9:00~17:00)
●不定休

6 レストランいしだ



香ばしいチャーハンの上に、特製タレで絡めた豚肉が乗った看板メニュー。ジューシーなお肉とチャーハンの組み合わせが絶妙です。

茂岩本町37 スーパーアグリ2F
TEL.015-574-2415
☎11:30~13:30 ㊟土・日曜、祝日

5 食事処 よし屋



栄養&ボリューム満点で、常連さんからは「ごはん半分にして!」という声も。小上がりもあり、ファミリーでもゆっくりとくつろげます。

茂岩本町34 TEL.015-574-3302
☎11:30~14:30、17:00~20:00
㊟土曜午後、日曜

4 朝日堂



さっくりふんわり揚げられたドーナツに、なめらかなクリーム。1日に1,200個も売れる理由が分かります。

豊頃町茂岩本町30 TEL.015-574-2402
☎9:00~20:00
㊟月・火曜(祝日の場合営業)

豊頃町ドラ



原生花園・長節湖



湧洞牧場



カラマツの家



12 松村商店



新鮮な大津の海産物を加工販売する松村さん。仕入れるサケは、どの海域で捕れたものなのかにまでこだわります。

豊頃町大津幸町38 TEL.015-575-2226
☎8:00~17:00
㊟日曜

11 きいちゃん食堂



きいちゃん食堂は大津唯一の飲食店。大津産のエゾパイたっぷりの「つぶ味噌ラーメン」が人気です。愛情たっぷりのメニューばかり!

豊頃町大津寿町5-2 TEL.015-575-2331
☎11:00~15:00
㊟月曜

10 中村水産



大津からほど近い湧洞湖で揚がったワカサギをすぐに炊き上げるから鮮度は抜群。はらわたの苦みがなく適度な噛み応えに。

豊頃町大津港町2 TEL.015-575-2144
☎9:00~17:00
㊟不定休

とよころ町 イベント PICK UP

大津漁協青年部直販まつり

大津前浜でとれたツブやホッキ、タコなどの「活」の魚介類を直販しています。だから安心！ 安全！ そして安い！ 人気の特売セットは整理券を配布するほどの人気ぶりです。



- ▶開催時期
4月下旬
- ▶会場
大津漁協1階
荷捌所(豊頃町大津港町35)
- ▶主催
大津漁業協同組合青年部、
大津地域マリビジョン協議会、
とよころ担い手サポート協議会

お問い合わせ TEL.015-575-2311(事務局：大津漁業協同組合)

とよころ夏祭り

1,000発の花火が空を彩る、豊頃の夏を代表する花火イベント。どさんこ戦隊「ハルニレンジャー」ショー、ウクレレ演奏や和太鼓演奏など、家族みんなで楽しむことができますよ。



- ▶開催時期
毎年8月中旬 14:00頃～
(花火大会は19:30～)
- ▶会場
える夢館駐車場
- ▶主催
豊頃町商工会
- ▶主管
とよころ夏まつり実行委員会

お問い合わせ TEL.015-574-2206

海と大地の祭典 とよころ産業まつり

海と大地に恵まれた豊頃町で、豊頃の秋の味覚を満喫できるお祭り。秋あじのつかみ取り、歌謡ショーなども行われます。この機会だからこそ手に入れられる商品がたくさんあります！



- ▶開催時期
毎年9月2日曜日
- ▶会場
JAとよころ 多目的広場
- ▶主催
とよころ産業まつり実行委員会

お問い合わせ TEL.015-574-2216(豊頃町役場 企画課商工観光係)

二宮獅子舞神楽

二宮獅子舞神楽が始まったのは、大正9年。二宮郷土芸能保存会の手により、その伝統は現代へと受け継がれています。福島県から伝わった勇壮な舞は圧巻のひとつ。



- ▶開催時期
毎年9月20日
- ▶会場
報徳二宮神社境内
(豊頃町二宮966)

お問い合わせ TEL.015-579-5801(豊頃町教育委員会)

大津港大漁まつり

売り切れ御免！ 大津で水揚げされる新鮮な海の幸を激安の浜値で販売します。アトラクションもたくさん実施しており、甘酒や鍋など、飲食物の無料提供も嬉しいポイントです。



- ▶開催時期
毎年12月第1日曜10:15～13:00頃
- ▶会場
大津漁業協同組合
(豊頃町大津港町35)
- ▶主催
大津港大漁まつり実行委員会

お問い合わせ TEL.015-575-2311(事務局：大津漁業協同組合)

どさんこ戦隊
ハルニレンジャーも、
いろいろなイベントに
参加してるよ！



どさんこ戦隊
ハルニレンジャー
とは…

ハルニレの木に宿った「天・地・海」の3つの魂から生まれた、正義のヒーローなのです！



ジュエリー・アイス

PHOTO/浦島 久
撮影場所/豊頃町大津海岸



2015 豊頃町 町勢要覧

豊頃町役場

北海道中川郡豊頃町茂岩本町 125
TEL.015-574-2211 FAX.015-574-3750